

<p>事案名</p>	<p>横浜市（横須賀海軍航空部第2工場造兵部谷戸田注填工場）の事案（神奈川県 新規事案）</p>
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『池子の森』（池子弾薬庫返還の記録）〔A1〕 ・『逗子の三代史 明治大正昭和年表〕〔A2〕 ・『神奈川の米軍基地』（平成13年2月）〔A3〕 ・『金沢の100年〕〔A4〕 ・『横浜市と米軍基地』（平成10年）〔A5〕 ・『横浜市史 第一巻（下）〕〔A6〕 ・「提供施設・区域の使用実態等調査書（業務資料）」〔A7〕 ・『横浜市と米軍基地』（平成15年）〔A8〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書〕〔A9〕 ・『戦時下逗子の朝鮮人労働者〕〕〔A10〕 ・『手帳 第83冊〕〔A11〕 ・『改訂 金沢の今昔〕〔A12〕
<p>資料内容概要</p>	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜市の六浦区域は昭和17年に民有地を買収し、横須賀海軍航空部第二工場造兵部が『谷戸田注填工場』として使用した。戦時中は、そこで毒ガスのイペリットを砲弾に充填していたので、敗戦後もしばらくの間は臭ったという」と記載されている〔A1〕。 ・「昭和19年に池子弾薬庫の横浜市側谷戸田地区（海軍航空技術廠補給部）でイペリットなど毒ガス製造」との記載がある〔A1〕。 ・年表の中に昭和19年「池子弾薬庫の横浜側谷戸田地区（海軍航空技術廠補給部）でイペリットなど毒ガスを製造」と記載されている〔A2〕。 <p>その他情報</p> <p>（1）谷戸田注填場に関する情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池子住宅地区及び海軍補助施設の横浜市域には、昭和17年に旧日本軍が横須賀海軍第2工場造兵部谷戸田注填場を設置したとの情報がある〔A3〕。 ・「17年、横須賀海軍第2工場造兵部は逗子・池子に接した六浦の民有地を買収し、谷戸田注填場（池子弾薬庫）として使用した。昭和20年9月、弾薬庫用地288万余平方メートルのうち、六浦町の分が36万4千7百83平方メートル余あり、米軍基地となった」との記載がある〔A4〕〔A5〕。 ・横浜市金沢区の六浦町には横須賀海軍第2工場、造兵部、谷戸田注填場が存在したとの情報がある〔A6〕。

(2) 地歴について

- ・現在の米軍池子住宅及び海軍補助施設（逗子市・横浜市）は、旧海軍軍需部の池子倉庫であった。昭和20年連合軍が接收、その後弾薬庫として使用したとの記載がある〔A7〕。
- ・池子住宅地区及び海軍補助施設（横浜市域分）は、昭和20年に旧日本海軍の施設を米軍が接收した。昭和57年横浜横須賀道路の敷地が返還され、昭和60年に施設名称が、「池子弹薬庫」から「池子住宅地区及び海軍補助施設」へ変更された。平成5年に池子住宅地区及び海軍補助施設（横浜市域分）の一部が、広域避難所に指定されている〔A8〕。
- ・登記簿によると横浜市六浦の米軍海軍補助施設（一部を調査したもの）は、昭和16年に民有地を海軍省が購入している〔A9〕。

(3) その他

- ・現在の池子住宅地区及び海軍補助施設（横浜市域分）との関係は不明だが、「昭和12年には、海軍の倉庫を造るために池子地区の土地の強制買収が始まります。ここは第二海軍航空廠補給部の弾薬庫として利用され、またその敷地内では砲弾や特攻兵器、さらには毒ガス弾などの製造作業が行われ、各地から多数の学徒が動員された」と記載されている〔A10〕。
- ・毒ガス弾との関連は不明だが、学徒勤労働員の昭和19年11月～昭和20年6月の記録の中には、「火薬庫へ火薬を出しに行き、少々時間をつぶして帰った晩、寒気がして段段細かな湿疹が出来、次に風船のようにまるくはれて来た」とあり、また、火薬にかぶれた時は、顔全体がどす黒くふくれあがり、腫れがすっかりひくのに1ヶ月かかり、全治するのに半年以上かかった」との記載がある〔A11〕。
- ・谷戸田注填場との関連は不明だが、「昭和17年には海軍の弾薬庫用地として逗子、池子、六浦の谷戸田に亘る287万平方メートルを買収しました。そのうち六浦谷戸田分が36万5千平方メートルほどです」との記載がある〔A12〕。